



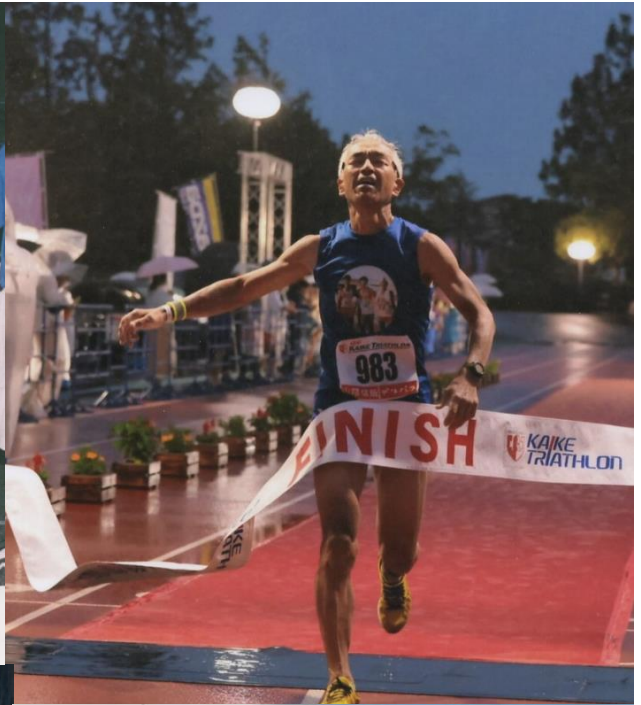
第7回全日本トライアスロン皆生大会

昭和62年7月19日

42.175
3 59 26



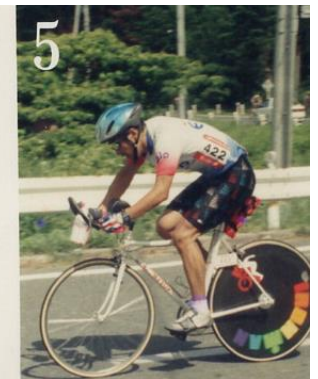
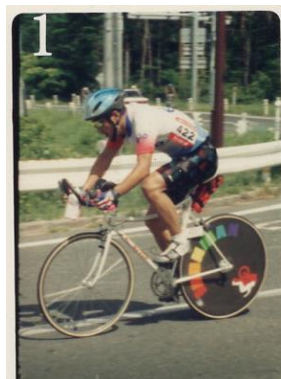
第21回全日本トライアスロン皆生大会 2001. 7. 29(SUN)



第25回全日本トライアスロン皆生大会 2005. 7. 17 (SUN)



第34回全日本トライアスロン皆生大会 2014. 7. 20 (SUN)



与えられた場で全力を

鳥取県八頭郡・下田智明・27歳

またまたやりました。初挑戦のびわ湖に続いて、二度目の皆生もなんとか完走できました。瀬古さんのセリフをまねるわけではありませんが、まったく「みなさんのおかげです」。自己の努力も、もちろん必要ですが、運営にあたられた大会事務局の方々、高校生ボランティアの皆さん、その他沿道で声援してくださった人々等の協力があったからこそ完走できたのだと思います。

しかし、我々選手は、これらの人々に感謝するとともに、これらの人々に頼りすぎてはならないと思います。びわ湖でも皆生でも、競技説明会の席で特にこのことを感じました。質問の時に、「ああしろ！　こうしてくれ！」といった、質問ではなく「要求」が、かなりあったように思うのです。

トライアスロンはあくまで、自助努力のスポーツだと私は考えます。あらゆる困難を乗り越えて完走するところが、トライアスロンの良さだと思っています。自分の都合のいいようになっていて、楽に完走できるものであれば、それはもうトライアスロンの意味がなくなってしまうように思います。困難なればこそ、苦しいからこそ、完走できた時の喜びは増大するので

はないでしょうか。

今後、ますますトライアスリートは増えていくと考えられますが、大会における参加者数は、安全面運営面で、ワクを拡大することはなかなか困難かと思っています。出場権を得られた人々は、それだけでも幸運なのですから、自分勝手な要求は慎み、与えられた場で全力を尽くすべきではないでしょう。



